にこにこ新聞　平成26年 7・8月号　第67号

日々楽々

浅間設備工業㈱：発行

「ピンクのチュチュを着たおじさん」の深い愛情

テレビ番組や、インターネットで話題になっている、「ピンクのチュチュを着たおじさん」をご存知ですか？

その人は、アメリカの写真家、ボブ・キャリーさん。彼が「ピンクのチュチュを着たおじさん」と呼ばれるのは、上半身裸にピンク色のチュチュ（バレリーナが着るスカート）を着た自分を写すからです。

彼は世界各地を飛び回り、有名な観光地、街中、雪の中、海辺、森、湖、砂漠などいろいろな場所でチュチュ姿の自分を撮り、「美しい風景の中にピンクのチュチュ姿のおじさん」という、奇妙な作品を数多く送り出してきました。

彼がチュチュを着るのは、女装趣味があるわけでも、変人だからでもありません。彼がそんな写真を撮り始めたきっかけは、愛する妻・リンダさんが乳がんを患ってしまったことでした。乳がんの治療に苦しみ、日に日に憔悴して表情が暗くなっていく彼女に、笑顔を取り戻してあげたいという一心だったのです。

以前、リンダさんは「思わず吹き出しちゃうような写真を見たら、前向きな気持ちになれる」と語っていました。さらに　ボブさんは、昔、仕事で撮ったチュチュ姿の自分を見て彼女が笑ったことを思い出し、あらためて彼女のためだけにチュチュを身に着けることを決意。彼の献身的な愛情と、ユーモア、哀愁など様々なものが込められた作品は、のちに世界中で反響を呼ぶことになります。

病室で作品を見たリンダさんは大喜び。そして、夫の願いどおり、輝く笑顔を取り戻していったのです。笑うことで心が晴れ、前向きに過ごせるようになり、彼女は心身ともに元気になっていきます。そのおかげで、がんの進行も抑えられ、小康状態を保つようになったのでした。またリンダさんは、夫の写真を見舞客に見せては一緒に笑い、周りのがん患者の方たちをも笑顔にしていきます。

ボブさんはThe Tutu Project（チュチュプロジェクト）を設立しました。彼が撮り溜めた作品は『BALLERINA』（バレリーナ）という名の写真集として出版されました。その他にも同プロジェクトのサイトで限定作品を販売。これらの収益は、乳がん患者のサポートのために寄付されています。ボブさんの作品はリンダさんを元気にしただけでなく世界中の乳がん患者にも笑顔を届け、治療支援に役立てられているのです。

キャリー夫婦の深い愛と強い絆、そして、がん患者のための尊い支援活動に対し、「ピンクのチュチュのおじさん、本当に素敵！」「涙がとまらなかった」「私も写真集を買って協力します！」など、たくさんの声が寄せられています。

この日、何の日？

七月二十四日　劇画の日

昭和三十年代、編集者であり実業家でもあった長井勝一氏によって設立された『青林堂』が、貸本などを出版して得た資金を元に劇画雑誌『月刊漫画ガロ』を創刊しました。一九六四（昭和三十九）年七月二十四日のことです。このガロの創刊日が、「劇画の日」と定められています。

初代編集長となった長井氏は、白土三平や水木しげるといった大物から、つげ義春や花輪和一といった異才まで、数多くの作家を見出した名物編集長として知られています。

大人向け劇画ブームの火付け役となった同誌で、特に、白土三平の『カムイ伝』は大きな人気を博します。

それまでの漫画はストーリー性が希薄なものとされていましたが、江戸時代の様々な階級の人間の視点から重層的に紡ぎ上げられた『カムイ伝』は小説をも超える硬派な作品として絶賛されたのです。そして、それまで評価が低かった漫画の世界に新しいジャンルを拓き、時代小説と比べても遜色ない時代劇漫画の礎を築きました。

『ガロ』はその後、幾度もの休刊や復刊をくり返しながら、二〇一一年一月に廃刊となっています。

模様替えと室内ドア　どうだろう？

私が、仕事で使っている「パソコン室」応接室だったところを、ただ、荷物だけを入替えて使っていましたが、壁紙が古いままだったので模様替え。白系にして明るくなりましたが、室内ドアの木目調がちょっと・・・。ネットで模様替えを検索したら、面白い工法で模様替えをするのがあったので参考に！。写真では判り難いですが、コンクリート柄で段差がある仕上がりです。自分的には気に入っていますが・・・。

平成２６年 ビンゴ第４回

64・73・19

66・41・1・?

？の数字はこの新聞の中に！
さがしてみてね！

リフォームもできる身近な水道屋さん
浅間設備工業株式会社
☎０２６７－６７－４１３０
FAX　０２６７－６８－５８３１
E-mail　info@asamasetubi.co.jp
http://www.asamasetubi.co.jp
住 所　佐久市岩村田住吉町159-3（佐久I.C東信号横）